



花は咲く…そして未来へ

校舎の間の中庭に白木蓮の木があります。ついこの間まで固い蕾だった花芽が一斉に開き始め、今では木全体が白い花でおおわれています。突然の臨時休校から10日あまり、この間に校庭の桜のつぼみも大きく膨らみ始め、今にも咲きそうな気配を漂わせています。先週、公立高校の後期選抜も無事に終わり、3年生は本日、第73回卒業式を迎えました。

3年生が小学校に入学した平成23年4月は、あの3.11 東日本大震災のわずか一ヶ月後、余震も多く、まだまだ震災後の不安が色濃く残る頃でした。そんな中、咲き誇る花々に迎えられて、元気いっぱい小学校生活のスタートを切りました。

それから9年間、いろいろなことがあったと思います。たくさん思い出を作ることができたことでしょう。中学校の卒業式は中学3年間の修了だけではなく、義務教育を終える、ということでもあります。中学校に入学して制服に袖を通してからは、あっという間だったかもしれませんが、それぞれが船橋中学校でいろいろなことを一つ一つ乗り越えながら成長してきました。様々な行事や出来事を乗り越え、様々な人と出会い、そして別れ、また新しい出会いをし、一步一步自分を成長させてきました。気がつけば今日この日を迎え、3年間をともに過ごした仲間ともいよいよ別れの時を迎えました。

卒業前の数日間が休校になってしまったのは、本当に残念でした。別れを惜しむ今日この日も、みなさんにとっては十分な時間とは言えないかもしれません。

今、3年生のみなさんに、ぜひ伝えたいと思うのは、「**みんながあなた達を応援している**」ということ。臨時休校が決定した日、1・2年生は<3年生を送る会>に向けて最後の練習をするはずでした。あの日、何とか3年生に思いを伝えたい、と急遽その練習を本番に変えてビデオ撮りをしたのです。その映像も3年生に見てもらえるのは卒業式当日だけしかないし、時間もどれだけとれるかわからない…でも、1年生も2年生も、それでも思いを伝えたい、という気持ちでした。中には、泣きながら合唱を歌っていた生徒もいたといいます。

先生たちも毎日教室や学校内の掃除をしたり、一人一人の生徒に思いをはせながら卒業式当日に備えてきました。式そのものの持ち方についても、多くの制約のある中、どうしたら思い出に残る卒業式にできるだろうか、と話し合いを重ねてきました。地域の方も、PTAの方も、この状況の中で、どんな風に卒業生を送れるのかを心配されていました。そんな中、学校ではホームページで臨時の学年だよりを発行して、様々な連絡をしたり、担任の先生のコメントを載せたりして、少しでも気持ちを伝えようとしてきました。

今日の卒業式では、来賓祝辞としてプリントされたPTA会長の内山さんの祝辞の中に、「保護者を代表して伝えたいこと」として、以下のような言葉がありました。

生まれてきてくれてありがとう。笑顔をありがとう。優しさをありがとう。楽しい日々をありがとう。たくさんの感動をありがとう。私達を幸せにしてくれてありがとう。

親の愛は強く、そして暖かい。その思いは、お互いに普段は口にはしづらいものですが、必ず伝わるものです。これからも子ども達は、自分の選んだ場所で懸命に咲こうとし続けることでしょう。私たち大人は、そんなあなた達をずっと応援しています。「ありがとう！」